

情報連絡員からの報告（要旨）

《製造業》

食料品製造業

1. <岩手県 めん類 >
行動制限や特別な規制もなく、夏祭りの開催や帰省客の増加により売上の増加がみられた。但し生産コストの増加が続く中で、利益の確保が難しい状況である。
2. <富山県 醤油・味噌 >
原材料の高騰による業界への影響は大きく、組合員の収益を圧迫している。生産コストが高くなる分、コスト削減や省人化対策に取り組んできたものの既に限界にきており、値上げを進めている。
3. <岐阜県 牛乳 >
牛乳の消費は、依然として前年を下回る傾向となっている。天候不順と食料品値上げが消費にマイナスの影響を及ぼしたと考えられる。9月は学校給食の再開もあり需要回復が期待される。
4. <愛知県 製麺 >
7月と状況は変わらず、納入価格の値上げは徐々に進んでいるようだが、小売価格は据置きの商品も多々ある。先の暗い状況ではあるが、政府による小麦粉の売渡価格据置の発表だけが救いである。
5. <愛媛県 海産物加工 >
包装資材、調味料、鰹原料及びエネルギー関係の高騰、急速な円安による食品の値上げラッシュが続き、収益が悪化している。全国的に外食産業も回復に向かっており、業務製品の回復が期待される。
6. <沖縄県 豆腐・油揚 >
8月は旧盆で一番忙しい時期だが、コロナ禍の影響を受けて休業となった事業所があり、また他は人手不足のため全体的に生産量が減少し、厳しい状況に陥っている。

繊維・同製品製造業

7. <福島県 縫製 >
8月も受注量は安定していたが、工賃については見直されず、人件費及び物価高騰に比例していない。そのため、売上が例年通りでも経費が上昇するばかりで収益の増加になっていない状態が続いている。
8. <福井県 織物 >
依然として自動車関連やスポーツ関連、アウトドア関連は堅調で全体的に前月とほぼ同じ状態である。取引先や扱っている商品によってはばらつきが大きく、売り上げ等に関してもまだら模様の傾向が強い。
9. <滋賀県 綿織物 >
厚織・軽布ともに各企業において景況に差が見受けられる。原糸価格等が高止まりの傾向が見られ、先行きが不透明材料である。
10. <京都府 染織整理 >
職人の高齢化が進む中、インクジェット捺染などのウェイトも高まり、これまで引き継がれてきた伝統的な技法に基づく工芸商品の市場が更に縮小し、先行き不安が一層高まってきている。
11. <香川県 手袋 >
全体的に商況は悪く、昨年並みの状況である（通年の70%）。アウトドア関連商品は好調であるものの円安影響は非常に大きく、アウトドア・防寒用商品全てのジャンルで利益が出ない状態である。
12. <長崎県 織物製成人男性・少年服 >
受注環境はまだら模様であり、生地、付属品の入荷が遅れているため、生産計画が立てにくい。また、離島地区は運賃その他のハンデがある。年内は現在の状況が続くものと思われる。

木材・木製品製造業

13. <青森県 製材 >
県内の製材所は依然として厳しい状況に変わらないが、最近、輸入材の一部において制限が解除され、本来の外材中心の新築が目立ち始めている。
14. <石川県 製材業、木製品 >
8月度売上は昨年と比較すると同じくらいだが、例年と比べると住宅の着工率は前月同様、昨年比約10%程度下がっていると思われる。外国産材の入荷も順調でウッドショックと騒ぐことはない。
15. <静岡県 製材業、木製品 >
新規住宅着工数の減少傾向から需要に一服感が生じ、製材工場の操業度が下がり始めた。既に、仕入れや販売価格に反映されている。経営の舵取りが難しい局面に入った。

16. <京 都 府 製材業・木製品 >
依然として木材価格は高止まりしており、原油価格高騰に伴い各資材も値上がりが続いている。8月以降も各社値上げのタイミングを見ているようで、今後の住宅価格に反映されると思われる。
17. <高 知 県 木製品素材 >
全体的に値下がり傾向となっているが、スギ価格は大きな変動はなく、ヒノキは値下がりしてきている状況である。スギ・ヒノキとも引き合いは良好であるが、ヒノキは少しダブっている。
18. <宮 崎 県 製材 >
原木市況は出材量は順調も、相場は虫害や製品需要の鈍化・停滞により、総じて下げ基調で推移している。新設住宅着工戸数は前年同月比7ヶ月連続で減少、需要減に拍車がかかっている。

紙・紙加工品製造業

19. <北 海 道 加工紙 >
夏の繁忙期に入りコロナ以前には届かないものの需要は回復傾向である。一方、原燃料・電力や副資材価格の値上げに加え、製紙メーカーの値上げが出揃い、今後の動向を注視している。
20. <福 井 県 和紙 >
主原料である木材パルプが、ドル価格の上昇に加え高円安水準の為替相場によってかつてない価格に跳ね上がった（約2倍）。更にエネルギー価格の上昇により各社の操業が悪化している。
21. <愛 知 県 段ボール >
春の材料等の値上げを受けた取引先との価格交渉もやっと進み、対前年比では少し明るい兆しが見え始めたが、秋の材料値上げ、電気や燃料も上昇を続けており、先行きには不安がある。
22. <京 都 府 紙製容器 >
業界全体に改善の動きが見られる。売上高の増加は、値上げが浸透したことによる影響が強く反映されているようだ。しかし、大手原紙メーカーによる一斉再値上げの表明が懸念される。
23. <鳥 取 県 紙製品 >
製材用素材の入荷量、製材品・合板の生産量は共に前月に比べ減少。原木価格は落ち着き、製材品価格も安定している。製材品の不足感は解消されつつあるが動きに活発さは見られない。
24. <愛 媛 県 紙製品 >
燃料高や円安等を理由に各製紙メーカーの値上げが15%以上に達し、10月からは更に20%値上げを実行する予定。紙加工製品の値上げが不完全な中で更に原紙の値上げ要請である。

印刷

25. <秋 田 県 印刷 >
コロナ感染の行動制限解除により消費動向が微増に転じ、需要増に期待はあるものの厳しい状況が続いている。受注価格の値上げが重要課題だが、得意先の理解を得るのに苦慮している。
26. <栃 木 県 印刷 >
季節的に需要が落ちる時期だが、昨年と比べると需要が増えてきている。原材料の価格上昇分の価格転嫁を進めているが厳しい現状が続いている。
27. <愛 知 県 印刷 >
エネルギー価格の高騰、FP印刷の主要資材である用紙やインキ刷版材料などの度重なる値上げで、厳しい経営環境にある。コストダウンなどの自社努力だけでは吸収できない。
28. <兵 庫 県 印刷・同関連 >
原油をはじめとするエネルギー価格の高騰、並びに印刷物の主要資材である印刷用紙、インキ、刷版材料等の度重なる値上げによる再度の価格転嫁の依頼で、印刷物の仕事は減少している。
29. <香 川 県 印刷 >
最低賃金の引き上げが決定されたが印刷中小企業の売上と収益は逼迫した状態が続いている。資材の値上がりは依然と続いており、今年2回目の用紙の値上げが8月にあった。
30. <沖 縄 県 印刷・同関連 >
印刷用紙や諸原材料および物流費の高騰で厳しい状況となっている。

化学・ゴム

31. <群 馬 県 ゴム製品 >
中国のロックダウンによる部品供給減の影響で自動車メーカーの操業が落ち込んでおり、自動車向け受注が低調であった。
32. <東 京 都 ゴム製品 >
自動車関連の顧客先から生産計画数量をもらっているが、実際の受注はその半分程度で、材料を調達すると在庫になってしまう。電気代、燃料費などの値上げが止まらず対応に苦慮している。

33. <長野県 プラスチック製品 >
8月の成形品・金型共に売上は昨年同期を上回り、全体として前年同期よりも増加となった。但し、在庫数量も増加傾向なので注視する必要がある。売上の増加と収益の増加に注力していきたい。
34. <大阪府 石鹼洗剤 >
コロナ特需の反動減が続いている品目もあるが、石鹼、合成洗剤は前年並の回復が見られる。原材料・資材・燃料費の高騰は、コストアップ要因となり、自助努力も限界に近く収益状況は厳しい。
35. <奈良県 プラスチック >
売上高が増加に転じ、原材料・資材等の高騰に基づく販売価格への転嫁が進んできており、収益状況が改善に向かっている状況にあるが、依然先行きが不透明で厳しい状況が続いている。
36. <島根県 プラスチック製品 >
量産品受注、売上は引き続き堅調に推移している。新規引き合い、問い合わせも継続しており、新規受注も堅調。成型材料の入手性についても良化傾向となっている。

窯業・土石製品製造業

37. <山形県 コンクリート製品 >
官公庁の設計価格と原材料価格の上昇が連動しないため、一部の製品は原価を割る価格で納入する事態が生じているほか、官公庁の発注物件も少なくなってきたり、先行きは厳しい。
38. <神奈川県 砕石 >
引き続き県内の生コンクリートの出荷が減少したため骨材の出荷も減少した。今後セメントの再度の値上げが予定されているため、生コンクリート需要が不透明な状況となっている。
39. <山梨県 骨材・石工品等 >
原材料や燃料の価格高騰に合わせ、組合員毎の状況は違うものの、現況では価格の転嫁しか打開策はないとの認識で共通している。その他に打開策が見えず、日毎に閉塞感が強まっている。
40. <山口県 コンクリート製品 >
重油、鋼材値の高騰により利益が圧迫している現状が続いている。コロナの影響により顧客への訪問が出来ないため、値上げの説明不足となっている。
41. <徳島県 生コンクリート >
8月の出荷量は昨年同月比、約7%の減少であった。お盆休みと1工場がプラントの設備更新のためほぼ出荷できない状況も重なったことが要因であると思われる。
42. <長崎県 生コンクリート >
石炭高騰によるセメントの値上げ要請が再度あり、1年間で約50%の値上げとなる。工場側は原材料値上げによる価格転嫁を実施したばかりであるが、再度値上げを実施しなければならない。

鉄鋼・金属製造業

43. <青森県 鉄鋼 >
工場平均稼働率と手持工事量は前月比横ばいであるが、今夏の見積物件は大幅減少で、特に地場の小型物件の動きが低調だった。各社で仕事をシェアし例月並みに何とか稼働している。
44. <栃木県 金属製品 >
各社、コロナ陽性者や濃厚接触者で社員の休みが相次ぎ、生産対応に追われている状況が多く見受けられる。また、社内の感染防止対策も正解な対処がないなか、就業に支障が出ている。
45. <埼玉県 鉄鋼・金属 >
工作機械、産業機械車輛にかかる鉄鋼部材は伸長しているが、いまだ半導体不足の影響が尾を引いており、出荷ベースでは低水準にある。
46. <新潟県 鉄骨 >
鋼材価格の上昇分が加工費を圧迫し収益状況は厳しい状況が続いている。首都圏物件はこの先も計画は旺盛であるが、地元物件は少ない。
47. <和歌山県 金属製品 >
全体的に、状況には大きく変わりがない。少しずつ受注は増えてきている傾向ではあるが、材料不足と価格上昇はまだまだ続いており、生産における工程管理が組みにくい状況である。
48. <大分県 鋼構造物 >
全国的には制限の緩和等により物件が大型化の傾向にあるが、一方で中小案件が少なくなっている。県内発注工事においても、物件が減ってきており、ゼネコン同士の競争傾向が見られる。

一般機器製造業

49. <山形県 その他の電気機械器具 >
資材の仕入価格高騰により収益が悪化しており、特に車業界の業績が悪く、部品製造は影響が来ている。電力等のエネルギー価格については昨年対比で20%弱上昇している。

50. < 群馬県 はん用機械器具 >
建設機械関連は伸びているものの、自動車関連の動きは良くない。一方、コロナ流行でストップしていたJRからの受注は戻りつつある。
51. < 富山県 金属工作機械 >
受注状況について、前年同月比110.1%となり、工作機械ロボット油圧等部門の受注は好調で大幅に増えている。工具軸受部門についても微増している。
52. < 大阪府 印刷製本機械 >
この数ヶ月同じ状態が続いているが、半導体を中心とした部材・部品不足が顕著になっている。また、景気の世界的減速感から輸出を含め新規注文が激減し、業界の景況感は極めて悪い。
53. < 岡山県 工作機械 >
売上・受注ともに順調に推移。燃調費の上昇による電気代の上り幅があまりに大きい。秋以降もこの状況は変わらない見込みだが、これといった対策は見当たらない。
54. < 福岡県 一般機械器具 >
コロナ禍ではあるもののある程度需要が高まりつつあるようで操業度は上昇傾向にあると思われる。しかし、原価の高騰（鋼材、石油関係）分の価格転嫁の状況により収益状況は異なる。

電気機器製造業

55. < 東京都 配電盤 >
先の見えない状況が続いている。受注残は多いものの1～2年先のものが主体で、短納期のものは部品調達難もあり避けている。オーダーメイド主体の組合員にとり大変厳しい状況となっている。
56. < 山梨県 電気機械器具 >
半導体不足が原因で関連部材の納入が遅れている。半完成品及び在庫が増え、売上げに結び付かないことから、前年同月に比べ売上げは▲25%となった。
57. < 静岡県 電気機械器具 >
大型冷蔵庫は年初より好調が続き前年を上回る生産が継続している。家庭・業務用エアコンは海外部品の調達問題の解消により生産拡大も、一部の部材の問題で完全回復には至っていない。
58. < 三重県 電気機器 >
産業機器部門関連の受注がまだまだ回復せず、全体では10～15%ダウンで推移している。
59. < 京都府 電機機械器具 >
売上高・受注残は上昇に転じているが、原材料の高騰が製造原価を押し上げ利益を大きく圧迫している。更に、部材調達難が継続しており、顧客要請納期に対応できない場合もある。
60. < 広島県 電気機械器具 >
電子部品の需要低下、一部部材の調達難や価格高騰等により、売上は前月比▲30%、前年同月比▲35%となった。最大の出荷先の中国での需要失速による部品の過剰在庫が発生している。

輸送用機器製造業

61. < 岐阜県 輸送用機器 >
組合員の主要事業である航空宇宙関係の直近の売上高は、ピーク時の約半分であるが、前年同月比では直前5か月平均でプラス5%となり、回復の兆しがようやく現実的になりかけた感がある。
62. < 静岡県 輸送用機械器具 >
半導体調達難による影響は改善されてきたが、船便の確保など物流面の課題も残されている。生産計画への影響が払拭されたわけではないため人員確保の判断が難しい。
63. < 愛知県 輸送機器 >
売上は前年同月比9%増。鉄道車両事業関連はこの先減少傾向にあるが、建設機械部品が上向きになってきた。また、エンジニアリング事業関連の装置設備部品製作も順調に推移している。
64. < 広島県 輸送用機械器具（自動車） >
全需は290千台、前年同月比▲9.3%と14ヶ月連続での前年割れとなった。登録車は▲13.3%と12ヶ月連続で前年比減、軽自動車は▲1.9%と1ヶ月振りに前年比減少へ転じた。
65. < 愛媛県 造船 >
コロナ禍以前の仕事量に戻りつつあり、組合員の業績は回復基調にある。鋼材価格や電気料金の高騰が続いており厳しい状況が続いている。
66. < 大分県 造船 >
造船業界は、受注状況は活発化し2024年までの仕事量を確保しており、更に1隻あたりの工期短縮を図っている。その人員確保が様々な条件（賃金・環境等）があり難しく、苦慮している。

その他の製造業

67. < 秋 田 県 曲げわっぱ >
コロナ感染者の拡大により、濃厚接触者や感染者となる従業員もでてきた。その都度、一定期間出勤ができなくなるため、少ない人員の中でフォローしつつも、業務には支障がでている。
68. < 千 葉 県 採石 >
大きな仕事はしばらく発生する見込みがなく、8月は前月を上回ったが、前年同月比では53%と下回る結果となった。今後の新海面処分場工事や新本牧埠頭建設工事に期待する。
69. < 福 井 県 眼鏡 >
受注は引き続き好調で、特に米国向けOEMを中心にコロナ前の水準に回復。眼鏡協会直営店舗の販売も同様に回復した。一方、競争激化で価格転嫁が進まず楽観視できる状況にない。
70. < 山 梨 県 貴金属・宝石製品 >
金やプラチナなどの地金の価格変動にあわせて販売価格が上昇したが、売上・収益ともに横ばいとなった。
71. < 兵 庫 県 その他 >
感染者数の急激な高止まりで周辺でも感染者が増加しているが、生産は前月比増加傾向にある。また、新規の問合せなどもあり、コロナ禍前まではいかないが、前年同月よりかなり好転している。
72. < 香 川 県 漆器 >
売上は前年並みだが原材料の高騰で収益は悪化している。現在出荷価格の改訂を交渉中だがなかなか値上げは厳しい状況である。

《非製造業》

卸売業

73. <北海道 各種商品 >
第7波の最中であるが、行動制限等の施策がないため、商業施設の来客数や企業の営業活動は前年を大きく上回り、季節商品の動きも良く業況は改善傾向にある。
74. <宮城県 繊維製品 >
気候変動が激しい中で、市場にもだいが動きが出てきた。今後の仕入単価がアップするため、さらに婦人衣料は激しくなりそうだ。為替の上昇がどれだけ影響するか読めない。
75. <東京都 食器 >
販売商品の値上げが続いており、販売環境が悪化している。主力商品の食器は買い控えが続いており、価格競争の厳しい消耗品の販売は収益を悪化させている。
76. <奈良県 毛皮革 >
毛皮加工はサンプル制作もストップして先行きが不透明である。今後に向けては、新商品を開発して販路を開拓していく必要があるが、毛皮業界全体が逆風なので厳しい状況である。
77. <山口県 乾物 >
倉庫売上は前年同月比ほぼ同等であるが、コロナ前よりはやや減少している。2業者（肉・いりこ）の大きな売上の落ち込みがあったが、他業者でかなりカバーができています。
78. <熊本県 各種商品 >
組合員の景況は、先月に続き円安により資材の高騰が続いており、仕入単価が業種問わず上昇している。特に非鉄金属の仕入単価が上昇しているため、関連する建築単価も同様に上がっている。

小売業

79. <宮城県 鮮魚 >
生サンマの入荷が始まったが、予想通りの不漁で極めて小さなサンマしか獲れず価格も高い。秋サケも不漁で小ぶりである。近海魚も海水温が高すぎて全く獲れず、販売できる魚が無い状況である。
80. <千葉県 青果 >
行動制限がない夏休み期間であったため、期待していたが結果は個人消費が伸びず、前年を3ヶ月連続割り込んだ。コロナウイルスの収束が見えず、この秋も不安な状況である。
81. <富山県 農機具 >
未だに商品調達が滞り、納入が遅れている。特に除雪機は品薄状態で、既に今期の発注は終了している状況であり、販売したくても出来ない状態である。
82. <滋賀県 茶 >
2番茶相場は昨年比5%程度上昇。卸売は相場が手伝い顕著に推移。小売はティーバッグ類が踏ん張っているが、主力のリーフ茶が減少している。暑さにより水出し商品の引合いが強かった。
83. <香川県 石油 >
県外安売業者の進出があり、地元組合員は過当競争が起こり、収益悪化により苦しい経営が続いている。例年に比べて、廃業するガソリンスタンドが増えている。
84. <佐賀県 鮮魚 >
昨年の益は、水害の影響もあり大幅な売上減だったが、今年は行動制限が緩和されるも期待するほど売上は伸びなかった。円安の影響で、輸入物の商品が値上、転嫁できず利益減となった。

商店街

85. <福島県 商店街 >
物価高の影響で、全ての業種の仕入単価が10%程度値上げとなっている。小売価格に転嫁する店や売上減を考えで据え置く店などが多く見られ、今後収益に影響が出てくると思われる。
86. <新潟県 商店街 >
ここにきてコロナ感染者が多くなり、外出を控える人達が多数見受けられるようになった。それに伴い街の人通りは以前にも増して少なくなったように思われる。来客数の減少に苦慮している。
87. <石川県 商店街 >
昨年と比較し売上は増加している店舗が多いとは思いますが、補助金もなくコロナ融資の返済も始まり苦しい状況の中で、原材料等が値上りし、消費者の購入意欲を削ぐような状況になっている。

88. < 兵庫 県 商店街 >
例年8月は、お盆を迎え帰省客で商店街に人通りがあり多少は活気があるが、昨年同様、今年もコロナ禍のため外出を自粛され、飲食業、食品を扱う店舗以外は厳しい営業環境が続いている。
89. < 香川 県 商店街 >
異常な暑さ、感染者数の高止まり、光熱費始め諸々の値上りなど悪条件が重なり、とにかく業況は悪いの一語に尽きる。高齢者ターゲットの店は厳しい模様で、資金繰りの悪化も耳にする。
90. < 鹿児島 県 商店街 >
夏休みはコロナの影響が懸念されたが需要は大きく、特に土産品やビジネスホテル等はコロナ前ほどではないが、売上が上がっている。一方、原材料等のコスト削減に苦心する経営者が多い。

サービス業

91. < 青森 県 旅館 >
前年・前月比ビジネス・観光とも若干増。コロナの不安はあるが、外国人の受入れ等、安全に留意して頑張るしかない。レストラン・宴会場を有するホテルはまだまだ厳しい状況である。
92. < 山形 県 情報処理サービス >
WEB制作関連の相談案件が若干増えている。制作会社ども忙しく、外注等に回すことが出来ない状況にある。
93. < 茨城 県 自動車整備 >
組合員事業場の車両入庫状況指数である継続検査台数（持込検査）の前年同月比減少となった。普通車の車検台数が数か月連続して減少している。
94. < 東京 都 各種教育 >
自動車教習所業界では、コロナ禍による免許取得の前倒し需要が収まり、入校生数が減少したことに加え、ガソリン価格の高騰等から収益が悪化した。
95. < 和歌山 県 飲食店 >
7月から感染者が急増しており、客足の減少に比例し売上が減少している。この状況がいつ改善されるか見通しが立たない。通常営業を止め週末のみ営業している店舗も見受けられる。
96. < 高知 県 旅館・ホテル >
7月頃までは回復傾向にあったが、8月より下降の見通し。9月以降は団体ツアーのキャンセルが増加しており、秋の旅行シーズンの受注予想は芳しくない。

建設業

97. < 福島 県 専門工事 >
近年例を見ないほどのペースで物価上昇が進行しており、建設業界のみに限らず影響が広がっている。一部の商材では半年で50%の値上げとなっており、生活物価の上昇よりも深刻である。
98. < 埼玉 県 鉄骨工事 >
1～2年前までは、従業員の殆どが車通勤であったためか感染者はあまりいなかった。しかし、感染拡大の影響か、従業員の感染や家族の感染で濃厚接触者となる事業所が増えてきた。
99. < 石川 県 板金・金物工事 >
今年度の大きな変化は、猛暑による外部作業の困難さと作業効率のダウンが挙げられる。7月以降の梅雨のない猛暑で職人の施工能力の低下、お盆休みで、売上・収益は増加しなかった。
100. < 長野 県 職別工事 >
鋼材の仕入価格高騰が続き、見積時と受注時のギャップもあり難しい状況が続いている。受注が出来ても価格に転嫁できないのが経営を厳しくしている。
101. < 山口 県 左官工事 >
工事着工の遅れがあり、現場の工事量はやや増加している。感染拡大で、欠勤を強いられる技能者が増加しつつあり、工事施工への影響が懸念される。
102. < 大分 県 コンクリートポンプ >
8月は、お盆期間の休みが長かった割に仕事量が多く県全体で工事件数で10%の増、打設数量で18%の増、売上で20%の増となっている。

運輸業

103. < 北海道 一般貨物自動車 >
本州からのJR便貨物がトラック便に切替えられたため、物流の量が減り、収益状況としては減少となっている。
104. < 茨城 県 県北地区一般貨物 >
例年のことではあるが、主要顧客の夏季休暇によりトラックの稼働率が低下し、売上高も例年同様減少している。燃料価格は高値安定しており、収益は厳しい状況が続いている。

105. <千葉県 貨物 >
 子供を持つ従業員がコロナに感染したり、濃厚接触者になるケースが増えている。夏休みが終わって新学期が始まる今後の動向が心配である。
106. <奈良県 軽貨物 >
 チャーター便の受注件数は前年比130%、売上は前年比115%で、製造業・建設関連は安定的に動いている。引越便は単身者の引越しが減少し、家具・家電1～2点の移動が中心である。
107. <広島県 道路貨物 >
 8月の売上高は対前年同月、対前月とも横ばいであった。前月比多少荷動きが回復しつつあるが、盆休の関係で稼働日が少なく、売上全体では大きな変化はみられなかった。
108. <熊本県 一般貨物自動車 >
 8月の荷動きは全体的に悪かった。燃料の高止まりには本当に困っている。また、生産停止や部品製造の遅れなど新規車両の調達にも苦労している。

その他の非製造業

109. <神奈川県 歯科技工 >
 原材料の値上がり響き収益状況は悪化した。夏季休暇があり平均月よりは売上も少なく前年同月より受注も減り資金繰りも悪化した。
110. <新潟県 砂利採取 >
 少しずつ骨材の出荷は増加傾向であるが、微増のレベル。8月の豪雨災害により、その発生土砂の運搬作業によってダンプカー不足となっている。
111. <兵庫県 物品賃貸 >
 受注物件は増加の傾向により増収増益となったが、資材、電気代、消耗品費等の上昇により収益は減少傾向にある。人材確保及び価格転嫁が課題である。
112. <岡山県 信用組合 >
 原油高騰の影響についてのヒアリング調査では、約80%の事業者が影響を受けている。今後も更に悪化する事が予想されることから資金繰り、本業支援の両輪で事業者支援を行っていく。
113. <広島県 不動産 >
 不動産市場は、事業所用地・建売建築素地不足による業者の土地仕入価格の上昇が続いている。建設業者等は依然として建築資材の納品遅延により、完成工事の遅れが出ている。
114. <福岡県 砂・砂利・玉石採取 >
 4月1日から価格改正を行ったことにより売上高は上昇しているものの、需要量は減少しているため収益状況に変化は無い（対前年比99%）。